

## 幹事会議事録 第1回～第15回

# 第 1 回 幹 事 会 議 事 録

## 1. 日時・会場

- ・平成7年11月13日(月) 10:00~13:00
- ・(社)土木学会 1号会議室

## 2. 出席者

佐伯部会長, 菊地部会長, 山本部会長,  
後藤幹事長, 田中(良弘), 田蔵, 今泉, 斉藤, 矢部, 田中(努)

## 3. 配布資料

- 幹1-1: 第2回準備会議事録(案)
- 幹1-2: 第1回阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会議事録(案)
- 幹1-3: 意見の整理(表)
- 幹1-4: 設計技術検討部会構成(案)

## 4. 準備会議事録について

- ・今泉幹事より説明。
- ・民間の情報集約システムを取り扱う件についてはペンディング。後で議論する。

## 5. 委員会議録について

- ・矢部幹事より説明。
- ・P.1「1. 委員長挨拶」のところに、石原副委員長の「将来あるべき設計法の方向を示したい」「管理者の代弁もする」という発言を加える。
- ・P.2上から16行目、「最終提言」という記述を「報告書」に訂正する。
- ・P.2下から7~9行目、結論保留であったので、表現を修正する。
- ・P.2下から3~4行目の意見に対して、「本委員会では無理であり、土木技術者の立場から提言をする」という旨の発言を加える。
- ・P.3上のコストに関する発言に、「いずれ情報公開が進めば、コストと品質目標の公開も生じるであろう」という発言を加える。
- ・P.3「5. . . . 審議」の結論に、「部会活動を開始することになった」ことを加える。

## 6. 委員会での意見の整理と活動方針

### (1) 安全性とコストの問題

- ・安全性とコストの問題については、公開しないが、内部で検討して良いとなったと理解する。

### (2) 基本問題検討会議との関係および提言への働きかけ

- ・基本問題検討会議との関係については、本委員会の委員長と副委員長に、基本問題検討会議の主な方々と、話し合っていたのが良いのではないか。
- ・委員会で基本問題会議と3委員会の報告があったが、学会の他の委員会の活動内容が分からないと、重複なく意義の高い活動をするのが困難である。
- 学会に活動内容を整理した資料を作成するよう依頼する。
- ・数多くの委員会が耐震問題を検討しているので、重複なく行うのは難しいが、「民の立場」を強く出した委員会はないであろう。
- ・本委員会は、基本問題検討会議の直属ではないので、同会議の方針に全てを合わせる必要はない。“one of them”として「提言」に従った活動をする。
- ・「第二次提言」は、官にも民にも、相当の課題を出すだろう。本委員会の設置期間は、基本問題検討会議より1年長い。その間に、「提言」を実行しやすいようにすることに我々の活動の意義があるのではないか。
- ・「提言」が具体的であり、我々が「設計理念」を論議する立場にないなら、「提言」が公表される前に、我々の意見を少しでも反映させて貰う必要がある。
- ・我々の意見を入れて貰うためには、11月17日の資料を見せて貰わねば、時間的に間に合わない。
- ・提言内容によっては、直ぐ実務に反映できないものも当然あるだろう。そうならば、提言公表後でも、大差ないであろう。
- ・提言される課題の中には、短期解決可能なものも、長期のものもあるだろうから、1月の公表に間に合わなくても問題ないのではないか。官側には「提言を反映させる具体の方法や計画を考えるのは事業者である」という考えがあるようだし……。
- ・「提言」が出たら、制約を受けるのは必至。少なくとも制約が強まらないような働きかけが必要ではないか。
- ・官や民を縛るような「提言」は出ないのではないか。我々は、「提言」が出た後で、品質やコストを意識したうまい設計法や適用方法を考える方が良い。
- ・「第二次提言」が具体的な数値が出るという。我々は、地震入力について意見を言えないが、適用方法に関する制約があれば、意見を言うべきである。時間がないので、部会長の判断で非公式ではあるが意見を言うことにしよう。

以上より、

- ・11月17日(土)13:30~16:30拡大幹事会を土木学会で開く。中止の場合は、前夜または当日の朝電話連絡をする。
- ・方針は次の通りとする。
  - 活動の範囲：事実認識と評価
  - 公表の範囲：一般公開には制限がある。官と一部の学には、意見を明示する。

## 7. 防災システムの検討方法

- ・コンピュータネットワークやGISは、現在研究中の段階であるから、それを防災のために使うシステムを学会として提示するならば、防災システム研究部会の予定メンバーでは無理である。

・提案の趣旨は次の通り。

「民間会社は土質データを持ち、地震観測も行っているが、有事でも一般公開されない。また、緊急活動や復旧活動に提供できる人材や資機材をあちこちに持っている。これらの情報を、震災時に限り、オンラインで、公けの防災センターに提供し、役立てるシステムが望まれる。」

・既に、NHKや東京ガスでは、地震情報を提供している。ゼネコンの力を加えれば、復旧活動まで可能になる。

・官側の対応が現在のままでは効果が小さいが、これを契機に変わることも期待できる。

・防災情報の一元化につながる、良い試みである。

・このシステムが出来れば、それをうまく使う方法の研究も必要になってくる。

→以上の意見を踏まえ、防災システム研究会で、取り組み方を再検討する。

## 8. 副幹事長候補の選任

・後藤幹事長により、ゼネコンから田中(良弘)、コンサルタントから田中(努)が、副幹事長候補に選任された。

## 9. 研究会の活動方針と予定

### (1) 協会等への検討依頼

・設計技術研究会では、ワークを建コン協に依頼したいがどうか？

・可能であるが、施工技術研究会では土木施工研究委員会のWGで対応する。

→建設コンサルタント委員会内の第6小委員会で、対応できるよう考える。

### (2) メンバーの人選

・設計技術検討部会に入るゼネコンのメンバーは、施工技術研究会で人選していただく。

・施工技術研究会に入るコンサルタントのメンバーは、設計技術研究会で人選していただく。

・防災システム研究会では、当面、部会長が人選する方向ですすめる。

→協会等への委員紹介依頼は、まとめて幹事長より願います。

注) 関西在住のメンバーでも、原則として、旅費は支給されない。

### (3) 予定

・設計技術検討部会：11月中に開始。

・施工技術研究会：11月中に人選。12月初めに開始。

・防災システム研究会：11月中に人選。12月中旬に開始。

以上(記録：田中努)

## 第2回幹事会議事録

### 1. 日時、場所

平成7年11月18日(土) 13:30～16:00  
(社) 土木学会本館 AB 会議室

### 2. 出席者

佐伯部会長、菊池部会長  
後藤幹事長、田中(良弘)副幹事長候補、田中(努)副幹事長候補、今泉幹事、  
斉藤幹事、矢部幹事、田蔵幹事  
(欠席) 山本部会長、大保幹事

### 3. 配付資料

幹2-1: 第1回幹事会議事録(案) — 田中(努)副幹事長候補作成  
幹2-2: 意見の整理 — 後藤幹事長作成  
幹2-3: 建設通信新聞; 11月17日朝刊記事「風波」 — 土木学会より

### 4. 第1回幹事会議事録(案)について

- ・ 田中(努)副幹事長候補より説明
- ・ P3の8.「副幹事長の任命」を、「副幹事長候補の選任」に修正する。

### 5. 11月17日開催の基本問題検討会議について

- ・ 後藤幹事長より説明
- ・ 会議は夜6時から9時頃までの3時間にわたって行われた。欠席者は1名で、ほとんどの委員が出席。
- ・ 第1分科会の報告は、東原教授からなされた。構造物近傍の断層パラメータから、入力地震動を決めることに対しては、賛否両論の意見があった。重要度について、記述すべきかどうかに関して意見が交わされた。
- ・ 第2分科会の報告は、土岐教授からなされた(一部今田教安と井合氏が説明)。入力動はスペクトルで規定する方向に。設計法は限界状態設計法に。第2分科会報告の(1)～(5)の記述方法に統一がとられていない。
- ・ 第3分科会の報告は、浜田教授からなされた。民間企業の人々の意見を聞いてまとめた。
- ・ 第4分科会の報告は、大町教授からなされた。他の分科会のまとめ方とかなり異なっている。十分な説明の時間がなかった。
- ・ 石原教授から、「対応委」の発足と委員会の目的について説明がなされた。

### 6. 基本問題検討会議と「対応委」の今後の係わり方などについて

- ・ 12月8日以降に「基本問題検討会議」幹事と「対応委」幹事との討論の場を設けたい。
- ・ 12月2日に「基本問題検討会議」の4つの分科会の幹事が、まとめ、執筆作業を開始する予定。
- ・ 現段階で「基本問題検討会議」に対して意見があれば、土木学会の河村さんを通し

て意見を述べることができる。

- ・12月2日に、「対応委」幹事会から現時点で考えられる質問、意見を述べることにする。
- ・11月24日の年前中までに、後藤幹事長宛に、「基本問題検討会議」の第2次提案(案)に関して、各自意見、質問事項をまとめてFAXする。後藤幹事長がそれらをまとめ、「基本問題検討会議」の幹事に渡す。
- ・「新潮」に今回の阪神大震災に関して、土木技術者の責任を指摘した論説記事があった。参考のために、幹事各位にコピーして郵送する。(矢部幹事)

#### 7. 今後の予定について

- ・12月13日16:00～ ; 第3回幹事会、忘年会
- ・1月30日14:00～17:00 ; 第4回幹事会
- ・2月9日14:00～17:00 ; 第2回委員会

以上(田蔵記)

## 阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会

### 第3回 拡大幹事会議事録

日時：平成7年12月13日(水) 16:00～18:00

場所：土木学会 3号室

出席者：佐伯部会長、後藤幹事長、田中(良弘)副幹事長、田中(努)副幹事、  
今泉幹事、矢部幹事、田蔵幹事、大保幹事、斉藤幹事  
(欠席)菊池部会長、山本部会長

#### 資料

- 3-1 第2回幹事会議事録(案) 田蔵幹事作成
- 3-2 設計技術検討部会 委員名簿
- 3-3 施工技術検討部会 委員名簿
- 3-4 防災システム検討部会 委員名簿
- 3-5 第1回設計技術検討部会議事録(案)
- 3-6 阪神・淡路大震災における社会基盤施設の復旧・復興計画に関する調査分析
- 3-7 アンケート調査・リスト
- 3-8 第1回阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会議事録(案)

#### 第2回幹事会議事録(案)について

P1下1 「川村」を「河村」に修正する。

#### 各部会の活動状況について

##### ・設計技術検討部会

11月28日に第1回部会を開催した。

これまでの経過を河村室長と部会長で説明したが、本委員会の趣旨がなかなか理解されなかった。具体的な活動内容については幹事が叩き台を作る必要がある。

組織は、部会の下に、WGを設けリーダーをおく。会議は、部会会議、WGリーダー会議、WG会議となる。

##### ・施工技術検討部会

部会メンバーはほぼ決定し、12月25日に第1回部会を開催予定である。

部会長の補佐として副部会長を設けたい。部会内であるということで承認された。

第2回部会を1月30日の午後に開催したい。拡大幹事会を1時間遅らすことが承認された。

##### ・防災システム検討部会

現状のメンバーにライフライン関係(公益事業者、メーカ)のメンバーを2～3名追加したい。山本部会長が内諾をとり、土木学会から招請する。

12月20日に第1回、1月20日に第2回の部会を開催する予定である。

建設マネジメント委員会の阪神・淡路大震災特別委員会で実施したアンケート調査結

果から、今回の震災の事実関係をまとめ、提言を加えてとりまとめる予定である。

アンケート調査について

本委員会の内容が他の常置委員会の内容とラップしないよう、河村室長からアンケート調査を実施した。多くの委員会で今回の地震に対して何等かの対応をしている事が確認できた。

今後の予定について

- ・ 1月30日 15:00～18:00 第4回拡大幹事会
- ・ 2月 9日 14:00～17:00 第2回委員会

以上 (斉藤記)



# 阪神淡路大震災対応技術特別特別研究委員会

## 第4回 拡大幹事会議事録

日時：1996年2月1日(木) 11:00～14:30

場所：土木学会 会議室

出席者：佐伯部会長、菊池部会長、山本部会長、後藤幹事長、田中(良弘)副幹事長、  
田中(努)副幹事長、今泉幹事、斉藤幹事、田蔵幹事、矢部幹事、大保

### 資料

- 4-1 第3回幹事会議事録(案) 斉藤幹事作成
- 4-2 第2回設計技術検討部会
- 4-3 「第二次提言」を踏まえた設計技術検討部会の活動方針(案)
- 4-4 設計技術検討部会の活動状況報告
- 4-5 設計技術検討分科会活動方針(案)
- 4-6 設計技術検討部会統一した耐震設計法への試み(案)
- 4-7 防災システム検討部会活動方針(案)
- 4-8 第1回施工技術検討部会議事録(案)
- 4-9 第2回施工技術検討部会議事録

### 議事

第3回幹事会議事録(案)が承認された。

各部会の活動状況について

#### ◎設計技術検討部会(資料4-2～4-6)

- ・過去2回開催された検討部会の報告があった。新たに入力地震動WGを設けた。
- ・各WGで作成された実施工程は、今後調整する。
- ・今後検討を進める上で被害実体の把握が必要であるが、その扱いの議論があった。
- ・他の検討部会を跨ぐ検討項目については、委員会に提案し、承認して貰う必要がある。
- ・コストについては、各部会での扱いが異なる可能性がある。
- ・現状レベルとのギャップがあり、何が問題かを整理する必要がある。
- ・委員会には、本日提出された資料をベースに整理して提出して貰いたい。

#### ◎防災システム検討部会(資料4-7)

- ・1月22日に第1回の検討部会を開催し、主旨説明を行った。検討部会での統一的な認識が十分でないための議論が必要である。
- ・建設マネジメント委員会で防災に関する調査を実施しており、このデータをレビューし、民の立場からの防災システムあり方の検討を考えている。
- ・第二次提言での問題点の整理、漏れている課題など指摘する事が必要では？
- ・委員会には、活動方針、具体的な検討項目、スケジュールを入れた資料を提出し

て貰いたい。

◎施工技術検討部会（資料4-8、4-9）

- ・第二次提言には、施工に関する項目がないため、この部会では、「耐震施工技術マニュアル」の作成を考えている。本委員会では、マニュアルの作成が目標ではないため、最終成果については、検討が必要ではないか？
- ・復旧仕様や新しい指針に対する施工上の問題点などの指摘・提言が考えられるのでは？
- ・成果品のイメージを固める必要がある。
- ・委員会には、活動方針、具体的な検討項目、スケジュールを入れた資料を提出して貰いたい。

◎その他

- ・土木学会全国大会での研究討論会への参加について  
幹事長に一任
- ・報告書が出来た後にサマーセミナーの開催についての議論があった。

今後の予定について

- ・3月12日14時～17時 第5回拡大幹事会 7号会議室

以上（大保記）

日時： 平成8年3月12日（火） 14：00～17：00

場所： 土木学会 第7会議室

出席者： 後藤幹事長、佐伯部会長、菊地部会長、矢部幹事、斎藤幹事、  
大保幹事、今泉幹事、田中（良）副幹事長（記録）

資料： 5-1 第3回拡大幹事会議事録  
5-2 第3回施工技術部会の資料  
5-3 第2回阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会 議事録  
5-4 第3回設計技術検討部会の資料  
5-5 設計技術部会 入力地震動WGの資料  
5-6 第2回防災システム検討部会に資料

## 議 事

### 1. 施工技術部会の活動状況

- ・ 第3回施工技術部会の議事録を説明
- ・ 品質不良、施工不良に対する検討として、a) 「性能保障の概念」をポイントとした提案はいかがであろうか。b) 建設省が1996.6版の「道路震災対策便覧」を改訂する話があるので調べてみる必要がある。
- ・ 基本的に民間が作成したという印象がほしい。
- ・ 震災復旧絵プロでは、昭和60年までに震災復旧マニュアルについて便覧としてまとめている。
- ・ 上部工と下部工の一体構造とした設計・施工の発注形態があってもよいのでは。また、CMの適用を積極的に取り入れた弾力的な発注形態の提案はどうか？
- ・ 将来的な話として、CMの必要性をアピールしては？

### 2. 第2回委員会の議事録について

#### (1) ~~施工~~<sup>設計</sup>技術部会

- ・ この委員会として発注形態やCMなどの見直しの必要性について、言及するよい機会であると思う。
- ・ 発注者のInhouse Engineering 能力が無くなってきた。そのため、CMやコンサルの重要性が益々増大してきている。
- ・ 設計技術部会では、a) 高度な設計技術へのcatch up、b) 地道なpotential up、c) 耐震技術者の育成、等が今後の設計技術を推進する上で重要なポイントになると考える。
- ・ 技術士の専門部門に「耐震部門」の新設を提案してはどうか？

#### (2) 施工技術部会

- ・ 岩崎委員会の結論：今回の被災はアル骨、施工不良が直接の原因ではない。
- ・ 圧接は、初期の頃、現場施工の管理に問題があったようだ。

・流動化コンクリート、CM、性能保障、プレハブ化、設計施工の不確定性などの前向きな議論が重要である。

・コンクリート打設継目処理に関して、道路橋示方書では細目がない。

### (3) 防災技術システム

・マスコミに対応するRule作り, Data baseの確保, Internetの活用などが必要では? また、情報の一元化の一環として、マスコミも抱き込むようなシステム作りが必要。

・土木学会の広報担当を明確化して、支部にも広報の担当組織を作ることが必要。

### (4) 安全性とコスト

・上水道と下水道の比較をすると下水道の被害は生活に深刻な不便を発生させた。耐震設計していない下水道を耐震設計したらどの程度コストアップにあるか?

・安全性にコストがかかるという認識が一般の人々にはないのではないか?

・この問題は、継続しておき、本特別委員会の後に、都市防災、経済学、遷都、一局集中などのキーワードから構成される次の委員会として提案したら?

## 3. 設計技術部会の活動状況

・道路橋示方書・耐震設計編の予定: 第1次原案を4月末、橋梁委員会を5月中旬に開催、8月に印刷。

・6~7月に意見照会が建設コンサルタント、協会、個人にある。――本委員会としての提言は?

・本委員会の名前で第2次提言提出先(運輸省、建設省、...)にその後の改訂作業についてその状況を聞く。

・文面を佐伯部会長が作成、→河村、廣田委員長に相談→書類提出

・アンケートの案: 対象は? ゼネコン、コンサル、電算会社?。コンサル協会は2500社ある。属性が抜けている。質問の仕方→動解の実績があるか。設問の3~5は無くする。そのかわりに設問2~4の内容を拡大する。対象構造物をエネルギー施設、地下タンク、工場基礎。無記名とする。

## 4. 防災技術システム部会の活動状況

・土木学会の震災対応として、マスコミに対して対応できる管理体制ができているか?

・震災対応をグロスでどのように対応したら良いか防災技術システム部会で取り上げ、次回の部会で議論したい。

## 5. 今後の予定

・6月の委員会は、中間報告として位置付けたい。

・設計技術部会: 活動方針、作業内容の確定。

・施工技術部会: 民間で対応した事実を民間から見た観点でまとめる。

・防災システム技術部会: Working group を建設マネジメントと分離して設定する。ライフライン系のデータをまとめる。

・建設コンサルタント協会、橋梁建設協会、日本建設業協会、土工協会のアンケートの結果を各部会長へ送付する。

・第6回拡大幹事会の予定: 1996年5月8日 14:00~17:00

阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会

第6回拡大幹事会議事録

日時：平成8年5月8日(水) 14:00～18:00

場所：土木学会 第3会議室

出席：後藤幹事長、佐伯部会長、菊池部会長、山本部会長、  
田中(良)副幹事長、田中(努)副幹事長、矢部幹事、田蔵幹事、  
大保幹事、斉藤幹事、今泉幹事(記録)

資料：幹6-0 第5回拡大幹事会議事録

幹6-1 設計技術検討部会 橋梁WG資料

幹6-2           〃                   地中構造物WG、港湾WG、地盤・土工WG資料

幹6-3           〃                   設計分野における耐震設計に関する対応技術アンケート(案)

幹6-3'          〃                   アンケート調査のお願い(文案)

幹6-4 施工技術検討部会 第4回議事録

幹6-5 防災システム検討部会 第2回、第3回議事録

幹6-6 設計技術検討部会 耐震設計基準等改訂作業状況に関する情報提供のお願い(文案)

幹6-7           〃                   入力地震動WGの実施計画

議事：

1. 主旨説明(後藤幹事長)

- ・6/14の第3回委員会では、年度末までにどのような活動を行うかを明確にする必要がある。来年1月頃(震災2周年)シンポジウムのものを開催することが決まっているが、そのためには次々回(秋頃か?)の委員会ではシンポジウムの基本的な内容の議論が必要になる。また、シンポジウムまでには報告書の概略ができてないとならない。このような事情を踏まえて本日の議事をすすめたい。

2. 議事録の確認(資料 幹6-0)

- ・「2.(1)、施工技術部会を設計技術部会」と修正し議事録は承認された。  
なお、関連して次のコメントがあった。
- ・2.(3)1行目の「Data baseの確保」は何のデータベースかを明らかにしていく必要がある。

- ・ 3.の道路橋示方書・耐震設計編は少し遅れるが、8月に通達の形で明らかにされる。印刷、出版は秋頃になると考えられる。

### 3. 施工技術検討部会の活動状況（資料 幹6-4）

- ・ 復旧工事の実情調査を文献等で調べるが、それだけでは不十分なのでアンケート調査をやることとなった。土木施工研究委員会の第7施工小委員会参加の会社を対象に、問題点や苦勞した点などを中心に調べたい。
- ・ 資材や技能工が一時期に集中的に必要になり、混乱が起きなかったか？などの実情を知りたい。
- ・ 応急復旧の時は混乱があったようだ。支援のための部隊の宿舎がなく、大阪など遠隔地で待機するケースもあった。本復旧では混乱は生じてないようだ。日本だから混乱がなかったとも言える。
- ・ 6/14の委員会までにはアンケートの項目（何を聞くか）を決めたい。7月末に発送し、8月末の回収を考えている。
- ・ 建設マネジメント委員会阪神大震災特別分科会で行ったアンケートの内容と共通する点もあるので参考にするとよい。5/15に報告書用の原稿が完成する。
- ・ 民間の動員人数の把握が委員会からの宿題となっている。何らかの調査をする必要があるのではないか。
- ・ コンサルタント協会では、参加会社がどのような種類の支援をしたかはわかる。しかし、協力した人数等はわからない。日建連でも同様である。
- ・ ゼネコンとコンサル、しかも土木、建築を含めての動員人数を調べるのは難しい事がわかってきた。したがって、土木だけでも調べられる範囲でトライするしかないようだ。土工協の範囲でも良い。現実的にはそれから類推するしかない。
- ・ 土木施工研究委員会の第7小委員会（参加は29社）なら可能性があるのではあたってみたい。
- ・ 専門家やマスコミの一部が品質不良、施工不良を震災に結びつけて指摘している。書籍等で発表しているが、施工部会としてこれに対応しなくても良いのか。無視するのは、これらを認めることにならないか。
- ・ 事実をベースにしないと議論しにくい問題である。とるに足らない問題についてはやりあってもしょうがない。
- ・ 壊れた原因が施工不良だというのは論外だ。しかし、設計を越える外力が作用したから壊れた、という説明には一般の人は不信感を持っている。丈夫すぎても弱すぎても文句はくる。結局は性能評価から考えるしかない。
- ・ この議論は尽きないので、継続審議としたい。

#### 4. 設計技術検討部会活動状況

(橋梁WG関連：資料 幹6-1、6-6)

- ・各機関への耐震基準の改訂作業の状況調査についての依頼（案）について次のコメントがあった
  - ヒアリングの方が良いのではないか。「お願い」だけではどのように扱われるかわからない。無視されるかもしれない。
  - 照会先も絞った方が良い。
  - どう答えてよいかわかりにくい。具体的な質問形式を取り入れてはどうか。
  - 途中経過の説明には役所は抵抗することも念頭に入れておくべき
- ・問い合わせの目的と質問事項を整理して、まづ相談役（清野副委員長）に相談すべきである。廣田委員長の意見を聞くにしてもその後が良い。
- ・道路橋示方書の改定案は6/18に出る。関係機関に意見照会を行うようだ。しかし、土木学会には意見照会は来ないだろう。改定案が決まるまでに部会の意見をまとめるにはスピードアップが必要だ。
- ・この委員会（部会）は、基準や指針の中身をコメントする立場にない。結果を受けてどうするかを考えるのが役目だから、改定案のスケジュールにこだわりすぎないほうがよい。

(地中構造物WG、港湾WG、地盤・土工WG関連：資料 幹6-2)

- ・設計法そのものを議論しようとしているが、委員会の主旨と違うのではないか。実施計画の原点に立ち帰り、何のために作業するかの確認が必要である。
- ・官の意見でなく、民の立場からの意見を示すことが重要。

(入力地震動WG：資料 幹6-7)

- ・活断層の判定には、位置、規模、確実性など難しい問題を含んでいる。判定の方法論を議論しだすと際限がない。方法論にはのめり込みたくない。
- ・活断層を考慮して入力地震動を決めることには実務上どんな問題があるかを示すべき。
- ・設計部会のWGリーダー会議が開かれるので、活動方針について調整したい。

(アンケート案：資料 幹6-3)

- ・発送先について検討が必要。同じ会社でも部門によって相当違うので、会社全体としてどうなのかを聞いた方がよい。

#### 5. 防災システム検討部会の活動状況（資料 幹6-5）

- ・土木学会として何をやるべきか、何ができるか、何をやるかについて議論を続けている。建設マネジメント委員会の分科会で調査した結果が5/15にまと

- まるので、このデータを防災システム部会の立場から解釈していきたい。
- ・ ライフライン関連の委員に加わってもらった。それぞれが内容の深い報告書をまとめており、参考になる事が多い。
  - ・ 震災後に、ガスの補修と関連で通電をいつ開始するかなど、それぞれの防災システムをどう連携させるかなどの課題がある。

## 6. 今後の方針

- ・ 次回の拡大幹事会

日時 6月10日(月) 16:30-19:30

場所 主婦会館3F松の間(夕食準備)

議題 第3回委員会(6/14)に向けての準備事項、資料の確認、研究討論会(1997.1)についてのディスカッション

- ・ 各部会は次の資料を6/10に用意する。

- ① 部会の活動状況(開催状況、議題)
- ② 成果の中間報告(成果が報告できる場合)
- ③ 今後の活動方針(工程表をつける)

- ・ 各部会は委員会で報告する事項について、事前に相談役に報告し指導を仰ぐ。
- ・ 研究討論会の内容案の準備→田中(良)副幹事長

以上



# 土木学会阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会

## 第7回拡大幹事会議事録

日 時：平成8年6月10日（月）16:30～19:30

会 場：主婦会館 3F 松の間

出席者：後藤幹事長、田中（良）副幹事長、田中（努）副幹事長  
菊池部会長、山本部会長  
斉藤幹事、今泉幹事、矢部幹事（記録）

資 料：

- 幹7-0 第6回拡大幹事会議事録（案）
- 幹7-1 第4回設計技術検討部会議事録（案）
- 幹7-2 設計技術検討部会の提言（案）
- 幹7-3 設計技術検討部会各WGの中間報告
- 幹7-4 耐震設計技術の高度化への対応に関するアンケート調査（案）
- 幹7-5 施工技術検討部会次回委員会提出資料
- 幹7-6 施工技術検討部会ヒヤリング調査項目と対象物件
- 幹7-7 防災システム検討部会次回委員会提資料
- 幹7-8 研究討論会企画案
- 幹7-9 阪神大震災の教訓（コンクリート構造物は壊れるべくして壊れた）
- 幹7-10 阪神・淡路大震災における社会基盤施設の復旧・復興に関する調査報告書

## 議事内容

### 1. 前回議事録の確認（後藤幹事長、幹7-0）

### 2. 施工技術検討部会（菊池部会長、幹7-5・-6）

- ①施工技術検討部会では、復旧工事に関するヒヤリング調査を行い、その後アンケート調査を行う。
- ②動員に関する調査は、ヒヤリング後のアンケート調査に調査項目として盛り込む。その際、調査・施工・設計に各何人、どこの支店等から何人という内訳についても調査する。アンケートは、土木学会の土木施工研究委員会の29社に対して行う。
- ③ヒヤリング調査は、調査結果の発表の仕方を議論しておく必要がある。
- ④ヒヤリング調査では、今後このような技術があった方が良いという要望も調査する。

### 3. 設計技術検討部会（田中（努）副幹事長、矢部幹事、幹7-1～-4）

- ①耐震設計技術の高度化への対応に関するアンケート調査は、会社全体の技術力を問うようにする。
- ②アンケートを出す会社は、総合建設会社は土木学会の土木施工研究委員会の29社、コンサルタントは業績等に基づいて設計技術検討部会で抽出する。
- ③コンサルタント部門の動員に関しても、アンケート調査により調査する。

### 4. 防災システム検討部会（山本部会長、今泉幹事、幹7-7）

- ①ライフライン間の相互作用（例えば、電気が回復したために、漏れたガスにより火災が発生etc.）についても調査する。
- ②都市ライフラインとして下水道は重要なので調査する。調査方法は、防災システム検討部会で検討する。
- ③支援は、施工技術検討部会でも扱っているが、焦点が異なるので、両部会で検討する。

### 5. 研究討論会企画案（田中（良）副幹事長、幹7-8）

- ①日時は平成9年1月22日、場所は土木学会講堂に決定。
- ②研究討論会ではなくシンポジウムとし、タイトルは「大震災の教訓をどう活かせるか」とする。
- ③外部からのパネラーの選定は、各検討部会で行う。もし、大阪でも行う場合は、外部パネラーの選定は、関西支部に一任する。
- ④遅くとも11月の土木学会誌に会告を出す。

- ⑤午前中の報告は、各部長が行う。午後のパネル討論会は、内部パネラーの話題提供を短くし、外部パネラーの話題提供の時間を長くする。
- ⑥企画案中の主旨で「都市防災を考える時、……………」とあるが、防災システム検討部会を行っていることに比較すると大きすぎるので、表現を変える。
- ⑦シンポジウムでの討論を、委員会の報告書に反映させる。

6. 第3回委員会（6月14日開催）提出資料の内容（後藤幹事長）

- ①各検討部会の報告は、活動状況・中間報告・今後の活動方針と工程という内容にする。
- ②資料番号は、本日の防災システム検討部会の資料（幹7-6）の様式に従う。

## 第1回 阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会議事録（案）

日 時：平成7年11月6日（月）14:00～17:00

出席者：廣田委員長、野尻副委員長、清野副委員長、石原副委員長  
今泉、岩本、榎波、大保、木邑、菊池、後藤、斉藤、佐伯  
柴山、高久、田中(務)、田中(颯)、田藏、野村（代理：森）  
富坂、前原（代理：太田）、矢部、山本  
事務局（土木学会）：河野、河村

資 料：資料No.1-1土木学会「阪神大震災対応技術特別研究委員会」（仮称）設置の件  
資料No.1-2土木学会阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会名簿  
資料No.1-3設計技術検討部会活動方針（案）  
資料No.1-4施工技術検討部会活動方針（案）  
資料No.1-5防災システム検討部会活動方針（案）  
資料No.1-6活動内容のイメージ（案）  
資料No.1-7「土木学会耐震基準等」に関する記者発表会メモ

### 議 事 録

#### 1. 委員長挨拶

廣田委員長、野尻・清野・石原の各副委員長の挨拶

石原副委員長の挨拶の中で、「土木学会耐震基準基本問題検討会議」では、“将来あるべき耐震設計の方向付け・理念の提示”、“管理者が発言しにくい内容について学会として代弁する”等の説明があった。

#### 2. 委員・幹事の自己紹介

委員・幹事・事務局の自己紹介

#### 3. 経過報告（資料No.1-1, 1-7）

河村事務局より、阪神・淡路大震災に関する土木学会の今までの対応と今後の予定、および本委員会設立についての説明があった。

後藤幹事より、第1回委員会開催までの経過説明があった。

#### 4. 幹事長選任

廣田委員長より、後藤幹事が幹事長に指名される。

廣田委員長より、後日、委員長と幹事長で協議し、幹事長代行を1～2名選出することが提案された。

設計技術・施工技術・防災システムの各検討部会の部会長は、その氏名が土木学会理事会提出時の資料に明記されているので、各部会長は選任済みであることが確認された。

#### 5. 各部会の活動方針とそれに関する審議

佐伯委員（設計技術検討部会）、菊池委員（施工技術検討部会）、山本委員（防災システム検討部会）より、各検討部会の活動方針（案）と部会員の構成について説明があった。

廣田委員長が、既存の他委員会との重複を避けるために、他委員会の動向について説明を求めた結果、石原副委員長「土木学会耐震基準等基本問題検討会議」、佐伯委員「建設コンサルタント委員会」、菊池委員・斉藤幹事「土木施工研究委員会」、山本委員「建設マネジメント委員会」の説明があった。

本委員会と土木学会耐震基準等基本問題検討会議の関係や、品質・安全のレベルとコストの関係について多数の意見が出された。

##### (1) 対応技術委員会と基本問題検討会議の関係について

- ・設計技術検討部会の活動方針は、基本問題検討会議とのすり合わせが必要なのではないか。
- ・基本問題検討会議の第2次提言（平成8年1月）に、対応技術委員会の意見を反映させるのは、時間的に無理であるが、平成8年3月の報告書には、反映させることは可能ではないか。
- ・基本問題検討会議の提言に対して、実際にどのように対応していけばよいかを具体的に提言するのが対応技術委員会の役目ではないかと考える。

##### (2) 品質・安全のレベルとコストの関係について

- ・設計品質・施工品質等の品質問題が課題となるのでは。物を作るとき、どのような品質を目指すかは各機関で異なるのが実状である。このような点に関して検討すべきではないか。
- ・品質とコスト、防災とコストに関する議論が必要ではないか。
- ・品質とコスト、防災とコストに関して社会的なコンセンサスを得ることは無理なのではないか。対応技術委員会は、問題点の整理や、何らかの議論を行うに留めるべきではないか。

- ・安全のレベルとコストの関係およびその社会的なコンセンサスについては、基本問題検討会議で提言し、それを受けて対応技術委員会の各部会が検討するというのが本来の姿ではないか。
- ・今まで有していた防災システムのどこに欠点があったのかを議論してもらいたい。
- ・社会とのかかわりや全体のシステムを作るときには、社会学や経済学の研究成果を反映させる必要がある。

対応技術委員会では無理であり、土木技術者の立場から提言をする。

- ・設計入力地震動を決めるに際しても、国民総生産に係わる問題なので、基本問題検討会議はその位の試算をやって決めて頂きたい。
- ・荷重とコストはいろいろなもので決まる。しかし、再現期間と耐用年数および超過確率を定めることはできるのでは。
- ・耐震設計の目標水準とコストを公開することはどのような意味を持っているのか。目標水準とコストは事業主体が決めることであり、土木学会が提言すべき内容ではないのでは。

現在の耐震性の目標水準のコストやそれを高めるためのコストを公開することにより、今後（21世紀）の選択の判断材料となる。

今後の耐震設計は、破壊を前提とした（破壊を制御する）設計へ移行すると考えられる。その際、各目標水準とコストの関係を把握しておくべきではないかと考える。

- ・目標水準とコストを公開するのであるならば、安全性のレベルを定量的に示す必要がある。
- ・対応技術委員会では、耐震設計の目標水準とコストの関係について分析と評価という形で活動すべきであり、公開すべき事項ではないのでは。
- ・いずれ情報公開が進めば、コストと品質目標の公開も生じるであろう。

以上の意見を踏まえて、各部会で議論し、その意見（活動方針等）をまとめて委員会へ提出することが決定された。また、石原副委員長より、基本問題検討会議の方へ対応技術委員会の意見を伝えるという発言があった。

意見がある場合は、11月20日までに、各部会長の所へ意見をFAXすることが決定された。

各部会の部会員の選定は、各部会に一任され、部会活動を開始することが了承された。

## 6. 耐震基準等基本問題検討会議への協力について

耐震基準等基本問題検討会の提言を対応技術委員会（部会長以上）へ説明していただき、場合によっては対応技術員会より何らかの行動を起こす。

## 7. 委員会の名称変更

事務局より、委員会名を阪神大震災対応技術特別研究委員会から、阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会に変更することが報告された。なお、略称は、対応技術委員会である。

## 8. プレス対応について

プレス対応の際の提供資料は、幹事長と協議しながら事務局で作成する。

## 9. 次回予定

まず、幹事会を行って、本日の委員会の意見を踏まえて、幹事会で本委員会のスタンスを決定する。

次回委員会は、平成8年2月9日（金）14:00からとする。

## 第8回 阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会・拡大幹事会議事録

日時：平成8年9月6日（金）10:00～12:45

場所：土木学会図書館

出席者：後藤幹事長、田中（努）副幹事長、佐伯部会長、菊池部会長、今泉幹事、大保幹事、斉藤幹事、藤田施工技術検討部会副部会長（オブザーバー）

資料：幹8-1 第3回阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会議事録（案）  
幹8-2 フォーラム「大震災の教訓を活かすために」企画案 その2  
幹8-3 第5回設計技術検討部会議事録（案）  
幹8-4 第3回委員会以降の「設計技術検討部会」の活動状況報告  
幹8-5 耐震設計技術高度化への対応に関するアンケート調査のお願い  
幹8-6 設計技術検討部会 報告書目次案  
幹8-7 第4回委員会 「設計技術検討部会」提出資料  
幹8-8 第5回施工技術検討部会議事録（案）  
幹8-9 阪神・淡路大震災の復旧工事に関するアンケート調査  
幹8-10 防災システム検討部会資料

### 議事内容

1. 第3回阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会議事録（案）の検討を行い詳細の修正が必要な部分は各部会から大保委員の基へFaxする事とした。
2. 設計技術検討部会から活動状況の報告があり、7月11日に部会、8月2日と9月3日にリーダー会議を開催したこと、同部会のアンケートを8月21日に162事業所に発送し既に半数近くが回収されていること、耐震設計基準の改訂動向の調査に着手したこと、等が報告された。次いで、同部会の報告書目次案が紹介され、第1編の提言を実務設計に反映させるための課題の検討では、橋梁、河川・堤防、地中構造物、港湾の4分科会で問題点の捉え方に精粗があり主体的な意見が見えない分科会があるがレベルあわせに努力していること、第2編の耐震設計技術の現状調査はアンケートと動向調査の結果を使ってまとめること、第3編の耐震設計の高度化に備える施策の提案は部会リーダー会で議論を重ねてまとめる予定である、との報告があった。  
関連して次の議論があった。
  - (1) 今後の施策の提案ではどうしても官に対する意見、問題提起が多くなる。  
→公表の仕方は改めて検討することとして、あくまでも学会の委員会としても申しすべきことを取りまとめる。  
→第3編に「第4章今後求められる土木技術者の役割」を追加する。
3. 施工技術検討部会から活動状況の報告があり、7月24日に部会、9月3日にリーダー会議を開催したこと、代表15現場についてのヒヤリング調査は終了し取りまとめ中であること、アンケート調査は不要でないかとの議論もあったが体験を今後を活かすためには量を把握した提言が必要ということになり、150現場を対象にしたアンケート



を実施することにしたこと、等が報告された。次いで、同部会のアンケート案が紹介され、24日の委員会の承認を受けて9月末発送、10月末回収の予定とする、との報告があった。

関連して次の議論があった。

(1) 代表的な15現場についてのヒヤリング結果からは応急復旧工法の技術的課題や復旧仕様を受けた施工の困難さについての問題が浮かんでこなかった。

→9月末から実施するアンケートの中に技術的な問題点や技術的課題、設計に対する要望を問う設問を加える。

(2) アンケートの依頼を誰の名前で出すか？

→設計技術検討部会のアンケートは廣田委員長名で出しているし、委員会のアンケートという趣旨を示す意味でも廣田委員長名とし、いきさつ説明を部会長名でつけたらどうか。

4. 防災システム検討部会から活動状況の報告があり、8月30日に丸1日かけた部会、7月中に災害時の相互協力、民間部門の復旧支援活動と教訓、ライフライン部門の復旧活動と教訓の各グループ会議を開催したこと、この部会では建設マネジメント委員会が既に実施しているアンケートを利用し独自のアンケートは実施しないこと、等が報告された。次いで、報告書のとりまとめ状況は、ライフライン部門の復旧活動と教訓が1次原稿作成、民間部門の復旧支援活動と教訓が執筆分担決定、災害時の相互協力が方針協議中、との報告があった。

関連して次の議論があった。

(1) 第2次提言に防災専門家を育てる必要があるとの提言がある。これをどう実現していくか、民になにができるかという観点の検討も加えてもらいたい。

(2) ライフライン部門の復旧活動と教訓はできるだけ問題点を掘り下げ、各ライフライン相互の影響についても触れてもらいたい。

(3) ライフラインの一部として道路も含められないか？

→委員会の席でも議論されたが、問題が広すぎ基本的に官が対応する問題であるので報告書には取り上げない。

5. フォーラムについて、6日の午後にシンポジウムを企画している行事企画委員会幹事会との打ち合わせがあること、関西支部から前向きに検討するので東京での詳しい計画と委員会報告の骨子を知りたいの要請が有ったこと、が紹介された。

フォーラムの企画案について、議論し次の通りとした。

(1) パネル討論会の始まりを13時15分、終わりを16時30分とし休憩も入れて十分な討論時間をとる。

(2) 参加費を1,000円とする。(後日の臨時幹事会で2,000円に変更)

(3) 各部会から、内部パネラーと外部パネラーの候補それぞれ数名を至急選定し、幹事長まで連絡する。

(4) 具体的な準備を行事企画委員会幹事会との打ち合わせをふまえて早急に取り組む。

6. 土木学会のインターネットホームページの作成を学会から要請されていることが紹介され、当面、幹事長が対応することとした。

7. 第4回委員会の準備について次のように申し合わせた。

(1) 各部会で次の資料を用意する。これ以外にも必要に応じて追加する。

- ・ 前回委員会以降の部会活動状況報告
- ・ 検討活動の中間報告（有れば）
- ・ アンケートまたはヒヤリング等の中間報告（実施していれば）
- ・ 各部会の報告書目次案
- ・ 今後の工程

(2) 目次案の精粗のレベルあわせのため、案を一度幹事長まで送る。

(3) 資料番号の打ち方は幹事長から連絡する。

8. その他、以下の議論があった。

(1) 設計技術検討部会と施工技術検討部会で実施したアンケートを整理するため、データをパソコンに入力する費用を学会で負担できないか？

→学会の河村室長に相談したところ、費用の予想を明確にしてもらえば検討することであるので、各部会で早急に見積もりを作る。

(2) 28日の土木学会の新聞発表で、当委員会が第2次提言の具体化のために現場対象の作業支援指針や設計・施工マニュアルを作るように報道されているが？

→作業支援指針や設計・施工マニュアルの作成は主として各事業者や行政の仕事である。当委員会の役割は、第2次提言を実務の現場に反映していく上での課題を分析し解決策を提言していくこと、震災直後からの緊急対応における官民協力体制の問題点と民間が果たし役割を分析し今後の備えを提言する事、そして同じ様な事態が生じた場合に役立つ資料を残すことにある。

（学会の河村室長に釈明を求めたところ、言葉足らずの所を新聞記者が拡大解釈したとのこと。）

(3) 震災緊急対応、震災復旧に民間土木技術者がどの程度動員されたかについて日建連の調査結果があり、ある程度使えるが、委員会で指摘があったような、どの地域のどの部門から移動してきたかについてまでは解らないので、施工技術検討部会がこれから実施するアンケートで補うようにする。その際、神戸の規模なら対応できたが例えば東京などがさらに大規模な被害を受けた場合に対応が可能か、といった観点でまとめられるように留意する。

(4) 3月末までの報告書のとりまとめ、1月のフォーラムを考慮すると年内に委員会の報告書の骨子ができている必要がある。その点を今後の工程に配慮する。

9. 次回予定

未定

## 第9回 阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会・拡大幹事会議事録

日 時：平成8年10月8日（火）10:00～12:30

場 所：土木学会図書館

出席者：後藤幹事長、田中（良）、田中（努）両副幹事長、佐伯部会長、今泉幹事、  
齊藤幹事、矢部幹事

資 料：幹9-1 第4回阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会議事録（案）  
幹9-2 フォーラム「大震災の教訓を活かすために」会告案

### 議事内容

1. 第4回阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会議事録（案）の検討を行い必要な修正を行った。
2. 田中（良）副幹事長よりフォーラム「大震災の教訓を活かすために」会告案が説明され、パネラーは全て内諾をとれたこと、参加費（資料代含む）2,000円、懇親会費5,000円で事務局の了解は取れていること、等が報告された。会告案について検討し、パネラーに肩書きは付けないこと、パネラー名に続く（ ）の説明は除くこと、パネラーはアイウエオ順とすること、コーディネーター名はパネラーリストの下へ移動することとした。
3. フォーラムの最終案を全委員と関西支部の高田教授に伝えること、パネラーにもお知らせし、パネラー打合会の開催とレジメの用意をお願いすることとした。連絡は幹事長がまとめて行うこととした。
4. フォーラムの資料は委員長挨拶が1ページ、部会報告が6から8ページ、パネラーのレジメが2ページ以内、合計40ページ程度とすることとした。
5. 委員会報告書は本編と参考資料編の2部作とする。本編は、委員長の挨拶（巻頭言）、まえがき、委員会ならびに部会名簿、報告要旨、第1編設計技術検討部会報告目次、同本文、第2編施工技術検討部会報告目次、同本文、第3編防災システム検討部会報告目次、同本文、あとがき の順とする。
6. 各部会へ割り当てられるページ数は、原則として本編50ページ、参考資料編100ページとすることとした。
7. 各資料の作成フォーマットは別紙の通りとした。
8. 報告書は実費で販売する方向で事務局と打ち合わせることとした。

次回予定 未定

以上

## 第10回 阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会・拡大幹事会議事録

日 時：平成8年12月5日（木）13:00～15:00

場 所：土木学会本館

出席者：後藤幹事長、田中（良）、田中（努）両副幹事長、菊池部会長、佐伯部会長、  
今泉幹事、矢部幹事

資 料：幹10-1 大阪におけるフォーラム「大震災の教訓を活かすために」会告案

幹10-2 大阪におけるフォーラムの関西支部提案パネラー案

幹10-3 フォーラムパネルディスカッションPart-2の実施要領案

幹10-4 設計技術検討部会からの第5回委員会資料案

幹10-5 防災システム検討部会の報告書目次案

### 議事内容

1. 大阪におけるフォーラム「大震災の教訓を活かすために」会告案（幹10-1）が説明され、了承された。
2. 関西支部から提案された大阪におけるフォーラムのパネラー案（幹10-2）を検討し、以下のとおりとした。パネラー候補者の内諾を急ぎ取ることとした。
  - PART-1 亀田弘行教授（京大）または高田至郎教授（神戸大）  
稲垣紘史氏（沿岸開発技術センター）  
橋本孝正氏（大阪市計画局都市耐震化計画室）  
友永則雄氏（建設技術研究所）
  - PART-2 山本幸司教授（名工大）または黒田勝彦教授（神戸大）  
斎藤富雄氏（兵庫県防災監）  
阪神高速道路公団から復旧工事担当者  
畑 昭雄氏（大林組神戸支店）
3. フォーラムパネルディスカッションPart-2の実施要領案（幹10-3）が説明され了承された。
4. フォーラム配布資料の原稿締切は1月7日とし、同日フォーラム開催の具体的な打ち合わせのために拡大幹事会を開催する。  
原稿のサイズはA4に統一する。
5. 設計技術検討部会の委員会用資料案（幹10-4）を検討し了承した。
6. 防災システム検討部会の報告書目次案（幹10-5）を検討した。
7. 次回を1月7日午後2時より開催することとした。

以上

第11回 阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会・拡大幹事会議事録

日時：平成9年1月7日(火) 14:00～17:00

場所：土木学会図書館

出席者：後藤幹事長、佐伯部会長、菊地部会長、

田中(良弘)副幹事長・田中(努)副幹事長、今泉、斉藤、田蔵、矢部

資料：幹11-1 第10回 拡大幹事会議事録(案)

幹11-2 第6回 委員会議事録(案)

幹11-3 フォーラム配布資料 部会活動要旨 設計技術検討部会

幹11-4 同上 施工技術検討部会

幹11-5 同上 防災システム検討部会

幹11-6 東京会場パネリスト話題提供メモ

幹11-7 パネル討論会運営計画メモ Part-1

幹11-8 パネル討論会運営計画メモ Part-2

幹11-9 大阪会場パネリスト予定リスト

議事内容

1. 前回議事録の確認を行い資料の通り確認した。

2. 各部会活動報告

・各部会より報告書のとりまとめ状況とフォーラム配付資料の説明があり、フォーラム配付資料のトーンあわせを行った。

3. フォーラムの準備

- ・全体の司会を大保、田蔵両幹事をお願いすることとした。
- ・事前申込者が7日の段階で100名を欠けるため、委員会委員に動員をお願いすることとした。
- ・サクラを幹事各社で2名程度用意することとした。
- ・配付資料の原稿最終締め切りは10日とした。

4. 大阪会場フォーラムの準備

- ・パネリストの最終検討を行い、関西支部の意向に添って決定する方針を了承した。
- ・大阪会場のコーディネータを、Part-1：佐伯部会長、Part-2：山本部会長をお願いすることとした。

以上（記録：後藤）

日 時：平成9年2月19日(水)10:00～13:00

場 所：土木学会図書館

出席者：後藤幹事長、佐伯部会長、菊地部会長、

田中(良弘)副幹事長・田中(努)副幹事長、今泉、斉藤、矢部

資 料：幹12-1 フォーラム(大阪会場)パネル討論会 討議要旨

幹12-2 施工技術検討部会報告書目次(案)

幹12-3(1) 防災システム検討部会からの最終報告書調整希望事項

幹12-3(2) 防災システム検討部会の提言要旨

幹12-4(1) 設計技術検討部会の委員会提出資料内容(案)

幹12-4(2) 設計技術検討部会の提言(案)

幹12-5 技術士の建設部門の選択科目に関する要望書

## 議事内容

### 1. 各部会活動報告

#### (1) 施工技術検討部会

WGリーダー会にて、今後の方針を議論した。

→フォーラムで出た意見と対応は、報告書に、別途、章を起こしてまとめる。

→次回委員会以降に報告書1次案を各委員に配布し、目を通して意見を送っていただくことにする。

#### (2) 設計技術検討部会

設計部会を開き、方針を調整した。

基準の改定動向は何らかの形でまとめる。

→報告書に細かく書く必要はないのではないか。

不完全だが、報告書案を委員会に提出し、議論していただきたい部分を説明する。

#### (3) 防災システム検討部会

提言のイメージを出すのが、要旨のみとなる。

施工技術検討部会と報告書の内容で調整すべき事項がある。(資料：幹12-3(1))

→各部会の報告書の内容は、多少の重複は許すが、結論はダブらないよう調整する。

また、各部会と別の次元で、これらを総括した委員会の結論をまとめるべきだろう。

### 2. フォーラムの成果のまとめ方

・東京会場の意見・大阪会場の意見・各部会の対応方法を、一覧表にまとめる。各会場の議事録作成者が要旨をまとめ、対応策は各部会で作成し、幹事長が全体をとりまとめる。

・各部会の報告書には、最終の結論の前に、「フォーラム『大震災の教訓を活かすために』での意見・提案とその対応」として章を起こしてまとめる。

### 3. 各部会の提言

・3部会の各提言を1冊にまとめる。幹事長の所へ、今週中に送付。

・設計技術検討部会の重要度に関する項目は、設計実務に密着した表現に修正する。

・施工技術検討部会と防災システム検討部会の重複部は「工事」と「システム」で分ける。

→委員会として、地域防災計画の実効性を高めるために、土木技術者が現場で行うべ

き行動計画を策定することを、提言すべきではないか。

#### 4. 技術士に関する要望書

- ・耐震工学委員会の幹事会では了承され、次回の委員会に提出する。
- ・建築学会や地盤工学会への働きかけも、進めている。
- ・受験者のニーズが既にあるにあって要望するのではなく、本委員会の研究により、耐震問題に関して、広範囲の知識を有し総合的な判断ができる技術者を育成する必要があるとの判断に至ったため、要望するのである。ただし、現時点でもある程度のニーズはある。
- ・既往の選択科目に耐震の出題を義務づける方法と、別に選択科目を新設する2つの方法を併用する案も考えられ、判断を審議会に一任することも考えれる。

以上（記録：田中努）

第13回 阪神淡路・大震災対応技術特別研究委員会・拡大幹事会 議事要旨

日時：平成9年3月27日（木）18:30～20:30

場所：土木学会本館

主要議題：報告書のとりまとめに関する件

第14回 阪神淡路・大震災対応技術特別研究委員会・拡大幹事会 議事要旨

日時：平成9年4月17日（木）18:30～20:30

場所：土木学会本館

主要議題：報告書のとりまとめに関する件

第7回委員会の準備に関する件

第15回 阪神淡路・大震災対応技術特別研究委員会・拡大幹事会 議事要旨

日時：平成9年5月15日（木）15:00～17:00

場所：土木学会本館

主要議題：報告書のとりまとめに関する件